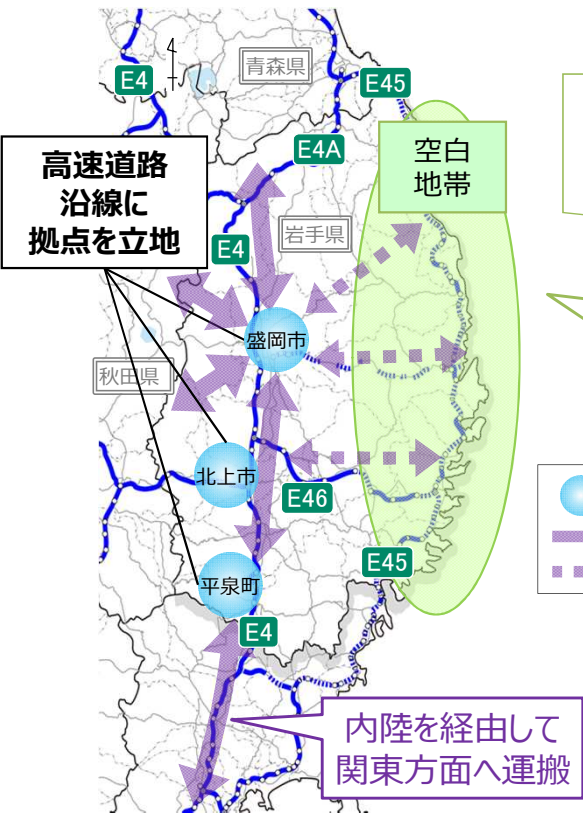


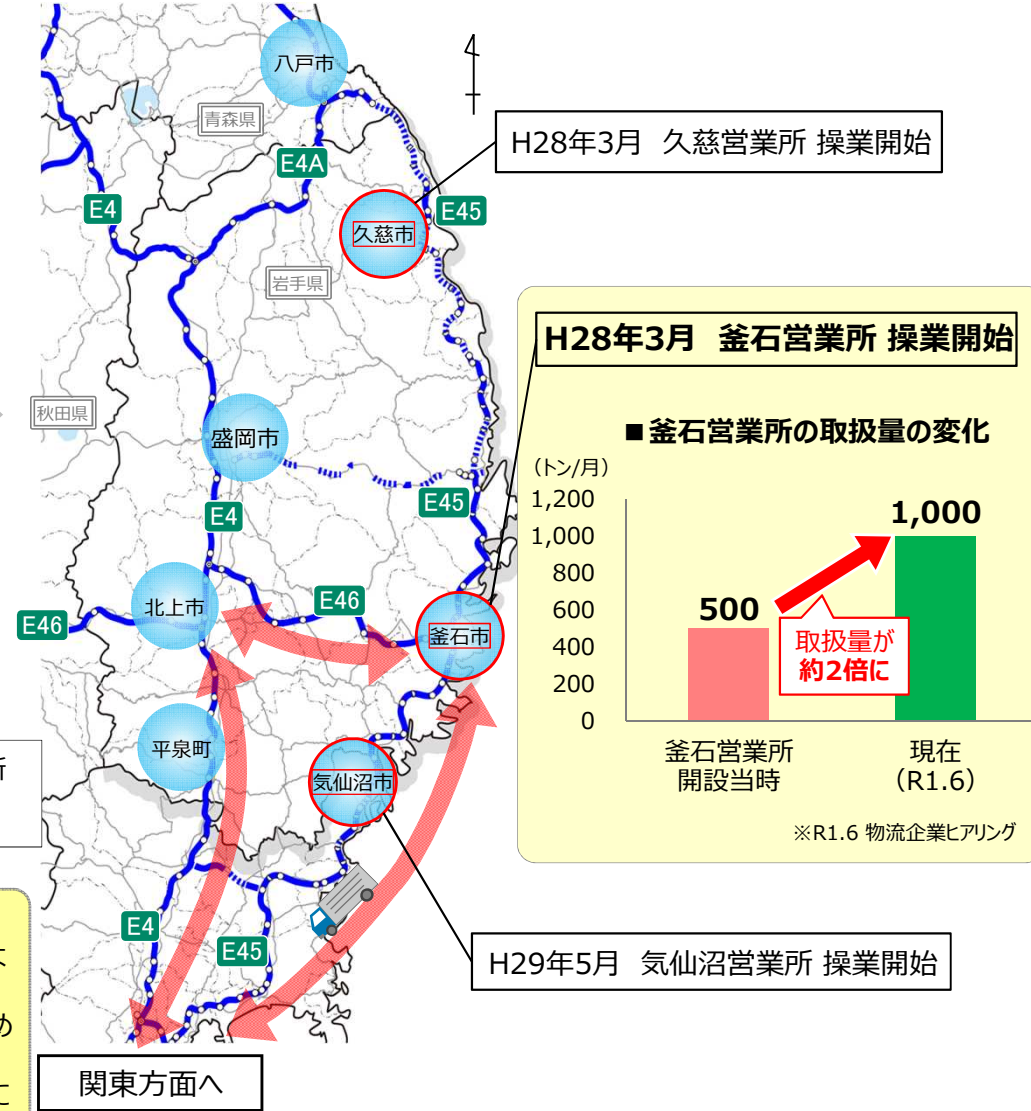
内陸中心の物流から三陸沿岸との2軸連携の物流へ

- ◆三陸沿岸の輸送事業は盛岡市や北上市等内陸拠点経由中心の物流から、東北縦貫道と三陸道、釜石道の2軸連携の物流へ変化。
- ◆大手輸送事業者は、復興道路・復興支援道路の供用を見越し、釜石・久慈・気仙沼営業所を開設。三陸道を軸とし、釜石道を内陸・沿岸の連携軸とした業務を開始。釜石営業所の取扱量は、営業所開設当時から取扱量が倍増。

■ H28年3月以前の出店エリアと輸送ルート



■ R1年6月時点の出店エリア・輸送状況



■ 道路整備による効果・期待

- ・釜石営業所では道路開通により、内陸を経由することなく三陸道ルートで関東方面への輸送が出来るようになっていきます。
- ・宮古市エリアからの取扱量が増えています。輸送時間が短縮されたことで、集荷時間に余裕が出来るため**新たな顧客を回れる**など、**ドライバーの業務効率化**につながっています。
- ・三治道全線開通後は内陸を経由する必要がなくなるため、**中1日かかる配送が翌日に配送**できるようになるなど、**輸送効率化が期待**されます。

(H27.8,H29.5,R1.6 運送業者ヒアリング結果)